

全国発信

■そうじゃ吉備路マラソン

早春の吉備路をランナーが駆ける吉備路マラソン。総社、山手、清音を巡り、作山古墳や備中国分寺を間近に見ながら、遠くには鬼ノ城も見える歴史ロマンあふれるコースで、日本各地からのランナーを迎える。



写真は平成14年の吉備路マラソン

■環境観光大使

写真は、環境観光大使の委嘱式であいさつをする野口健さん。式の後に行われた講演では、エベレストや富士山の清掃登山の体験を紹介し、自分だったら何が出来るかを考えてほしいと訴えた。今年は、子どもたちを対象にした環境学校を計画している。



コースを一新

環境観光大使

観光客の増加へ

県立大と連携



■観光プロジェクト

観光による総社市の全国発信や観光客誘致に向けた話し合いが行われている。昨年末には8つの分科会もでき、広報・宣伝や交通・宿泊、特産品などの具代的なテーマで協議が進んでいる。

■岡山県立大学との連携

写真は、左から三宮信夫学長、片岡聡一市長、中村吉男議長。包括協定を締結し、がっつりと握手をかわす。市と大学との対話も行われるなか、連携事業はさまざまな部署で進んでいる。



「総社市の存在を全国に」。その取り組みを紹介します。市と岡山県立大学は2月20日、連携協力に関する協定(包括協定)を締結。市と大学がさまざまな分野で組織的に連携し、相互に支援することを約束しました。締結後、防災公園の整備や子ども体験教室などに知恵を出し合い、事業を展開しています。

7大陸最高峰の世界最年少登頂記録を25歳で樹立したアルピニストの野口健さんを5月25日、市の環境観光大使に委嘱。環境と観光の両面から全国に総社市のPRをお願いしました。環境観光大使は、今年創設されたもので、野口さんが第1号です。無報酬で任期はありません。

総社の観光を考える「総社観光プロジェクト」が5月17日、発足。委員には、民俗学者の神崎宣武さんやデザイナーの水戸岡鋭治さん野口健さんなど20人。会長は、J.R.西日本コミュニケーションズ代表取締役社長で、下倉出身の浅沼唯明さんです。昨年末までに4回開かれ、総社の観光の本質について議論されています。

7回目の「雪舟の里 総社 墨彩画公募展(審査委員長…平山郁夫さん)」の雪舟大賞は、長原勲さん(玉野市、23歳)の「site.N」が輝きました。歴代の雪舟大賞のなかで、最年少の受賞者です。

吉備路や市街地を巡るコースに一新し、そうじゃ吉備路マラソンを今年2月15日に開催。フルマラソンと4.5kmの2種目に日本各地から約3800人のランナーがエントリーしています。

取り組んでいる事業の方向性や目標数値を各部長が市民の皆さんに示し約束する「部長マニフェスト」を作り、実行中です。



市では、豊かな心をはぐくみ、社会に貢献できる人を育てようと、子育て王国そうじゃの実現に向け、小児医療費の無料化の対象年齢の引き上げなど、各種事業を展開している。「子育て王国そうじゃ」のロゴキャラクターには、岡山県立大学デザイン学部3年の矢浦有理江さん(写真右)デザインを採用。名前は、山本岩夫さん(井手、右上の写真左)と、今池和子さん(岡山県浅口市、右上の写真右)の2人が応募した「チュッピー」に決まった。



「雪舟の里 総社 墨彩画公募展」で雪舟大賞を受賞した長原勲さんとその作品「site.N」



部長マニフェスト

